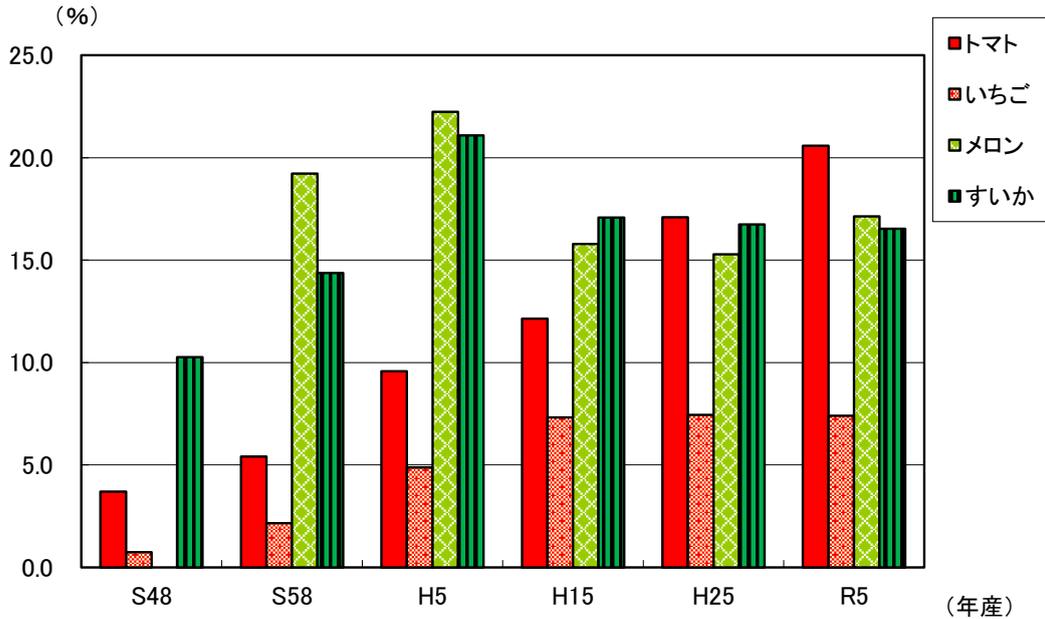


熊本県の出荷量（全国に占める割合）の推移



解 説

【概要】

熊本県の主な農産物の出荷量の推移をみると、トマトは昭和48年の統計開始以降、増加傾向にあり、令和5年は128,100 tであり平成23年から13年連続10万 t 超である。

いちごは統計開始以降しばらく増加傾向だったが、平成14年の14,300 t をピークに減少に転じ、平成24年以降はおおよそ11,000 t 程で推移している。

メロンとすいかは平成に入ってから減少傾向にあり、令和5年はメロンが22,800 t、すいかが43,800 t となっている。

全国に占める割合をみると、トマトが20.6%、いちごが7.4%、メロンが17.1%、すいかが16.5%となっており、トマトの割合が一番高くなっている。

なお、トマトとすいかは、全国1位で、メロン同2位、いちご同3位となりいずれも全国順位は上位3位以内であった。

○出荷量

収穫量のうち、生食用、加工用又は業務用として販売した量をいい、生産者が自家消費した量及び種子用、飼料

○収穫量

収穫したもののうち、生食用又は加工用として流通する基準を満たすものの重量。

○調査の対象

全ての都道府県を調査対象とする全国調査を作付面積調査は3年、収穫量調査は6年ごとに実施されており、全国調査以外にあっては、調査対象品ごとに直近の全国調査年における面積調査結果に基づき、全国の作付面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県、野菜指定産地に指定された区域を含む都道府県、畑作物共済事業を実施する都道府県及び特定野菜等供給産地育成価格差補給事業を実施する都道府県が調査対象となる。

○調査時期

収穫・出荷終了時となる。

資料 出 所	調 査 期 日	調 査 周 期
「令和5年産野菜生産出荷統計」 農林水産省	令和5年	毎年